

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月26日(木)

《いつも準備するように》

主の平和

子供達がある程度大きくなって、幼稚園に入ります。幼稚園に入ったら、いろんな事を先生から教えてもらいます。そのなかで、よく耳にした教えには何があるのでしょうか。皆様が子供の時に一番言われた事には何があるのでしょうか。逆に皆様が子供達によくおっしゃった事、今は皆、子供達が大人になっているでしょうが、小さい頃は何を一番その子供達におっしゃったのですか。色々あると思いますが、代表的な教えの中でも準備性についてよくおっしゃったのではないのでしょうか。「宿題をあらかじめちゃんとしなさい」と。夏休みや冬休みに、一ヶ月もずっと遊んでいて、一日残っているその日に、たまっている日記をまとめて書いている子供達をみながら「これではいけない」と、思われた事があると思います。

“いつもあらかじめ準備する心、その準備する者が成功する。”よくそのように言われていますよね。そうは思いませんか。そのように子供達におっしゃった事があるでしょう。いつも準備が悪くて、もう時間がなくて焦って物事をやっているその姿をみて、子供達をしかった事もあるでしょう。(笑い) 笑っていますが心当たりありますよね。

さあ、この社会的な考え方にも、この世の中に生き残るためだけでなく、立ち上がるために、何よりも必要としている一つの心構え、それは準備性と言われています。準備する者は、何があってもどうにか乗り越えられる力を頂ける。それは常識として、どの国でもそのように言われています。準備性が悪いと教える国や文化はないでしょうね。その親もいないでしょう。「特に準備しなくてもいいよ。その日、瞬発力を持って柔軟性を持ってその場でやればいいよ。」それは私のような怠け者に合う話しです。普通なら親は準備性を教えます。いつも準備するように、何が起こってもそれにどうにか対応できるように準備する事を教えます。

今日、読まれた福音(マタイ 24・42-51)のこの箇所の内容は、数え切れないくらい皆様が耳にしたと思います。イエス様は、「目を覚ましていなさい。思いがけない時に主人が来るから、いつも用意していなさい。」とおっしゃっていますよね。しかし、面白いことに、人間は本能的に深刻な事はわざわざ避ける傾きがあります。深刻な事、例えば一番身近なこととして、自分の死についてはあまり考えたくありません。他の人が死んでも、自分には関係ないように思ってしまふ。このように頭が無意識的に働きます。これは本当です。私の話しではなくて学者達の話しです。もし、自分の家族とか身内が亡くなって難しい事にぶつかった時はもっと深刻になります。しかし、すぐ忘れます。忘れるのは自動的に忘れるのではなく、自分も無意識的に忘れるように頭がさせるのです。だから目の前のものに縛られてしまいます。結局私達は、行かなければならない道が何であるか全部知っています。どの

ような生き方すれば、死ぬ時にどうにか綺麗に死を向かえられるか全部分かっています。しかし、忘れます。何でも無い事に腹を立てて命かけようとします。それが普通の人間です。そして、信仰者である私達もこの福音を数え切れないほど聞いたのですが、結構忘れながらほとんど意識しないで生きています。認めますか皆様？

「イエス様が目を覚ましていなさい。」とおっしゃっているので、今日も「目を覚まして一日過ごす。」と、そのような覚悟のある心持ちの方は何人いらっしゃるでしょうか。いないでしょう。わたしもそうです。しかし、予想もつかないその日は個人個人に来ます。必ず訪れます。それが明日か明後日か誰も分かりません。この事はイエス様が、私達が一対一に呼び掛けられた時におっしゃると思います。

「私は2000年前に言ったじゃないの、いつも目を覚ましていなさい、予想もつかない日に私が呼び掛けるから、あなたはその準備をしたほうがいいと、何回も言ったじゃないの。」とおっしゃると思います。「ええ、でも私にはまだ時間が残っていると思っていました。ごめんなさい。」これは有り得ない答えです。

今日の福音はちょっと深刻に考えてみましょう。深刻にということは、このようなイエス様の御言葉を意識しての生活が出来れば、多分毎瞬間、出会う色々な関わりとか全てのものにたいして、どのくらい尊い貴重な時間であるか、関わりであるかが分かります。そして何が一番自分の相応しい態度になるか分かります。その相手のために私が何をすべきかも分かります。意識しないからいつもその機会、チャンスを失ってしまいます。

皆様、ある意味で、私達に与えられている毎瞬間、毎時間全ての事がチャンスかもしれません。そのチャンスが償いのチャンスか、施しするチャンスか、徳を積むチャンスになるか、それはそれぞれ人によって違うと思います。

今日の福音もう一回考えながら、少なくとも信仰者として、「いつか予想もつかないその日が来ても私はかまわない。」そういう答えが出来る人生を作りましょう。そういう努力が信仰の道ではないかと思えます。

皆様、何が大事なものが、何が無駄なものか既にご存知だと思います。分かる事を実践するのが人格者です。分かる事だけでは何の意味もありません。むしろ分からなくて犯した罪よりも、分かって犯す罪のほうが赦され難いかも知れません。分かっている事、それを本当に自分の身に付けようとするその努力を毎日毎日しましょう。そして、その心が許されるようにイエス様に求めましょう。

ありがとうございました。